

ツクシガヤ（イネ科）

～佐賀県の絶滅種～

沼沢地などの水湿地にはえるやや大型の多年草で根茎は短く、高さが100～120cmになるススキに似た草本である。もともと九州で発見された植物であるが、現在は山形県、奈良県、熊本県、そして、佐賀県唐津市で確認されている希少植物である。各県の生育地も狭い範囲に限られていて、斑紋状に隔離分布するめずらしいものである。

唐津市の生育地は、川幅8～10m、水深30～60cmの小礫と砂の河床を水が流れる緩やかな流水域で、周囲にはヨシが生育している。生育範囲は、長さ30m、幅5～10mくらい、約100株位が群生している。各地の生育状況も個体数が少なく、生育地が限られ、河川改修や沼沢地の埋め立て、改修などで生育が危機状態である。山形県では県の天然記念物に指定されている。

国の環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧種（VU）に指定されている。佐賀県は絶滅種になっている。

流水地に群生するイネ科の植物で、8月～10月にかけて、長さ40～50cm、糸のような滑らかな円錐花序を伸ばし、花の後小さなモミのような実をつける。以前、武雄市にあった自生地は改修されて40年前に絶滅して、唐津市の自生地は近年確認されたものである。もともと希少種であったが、現在はとくに減少し、絶滅も心配されているものである。

分野 自然

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など



（川浪誠氏より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『日本イネ科植物図譜』平凡社
- ◆『日本の野生植物 草本Ⅰ』平凡社

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html